

議員（松岡 忠）

6番 松岡 忠、ただいまより令和2年第1回多度津町議会定例会の一般質問を行います。

その前に、コロナウイルスによる小学校、中学校、高等学校が休業になり、また幼稚園の卒園式、小・中学校の卒業式が縮小されるなど、大事な行事や会議に影響が出ていますが、一刻も早く終結することを希望しております。

今から一般質問に入ります。

今回は私が前から質問している幼稚園の統合に関するもののみ、1点を質問します。

平成28年8月から検討委員会で審議していた幼稚園の適正規模・配置は、平成30年3月までに11回実施をして検討委員会の答申を受け、教育委員会において基本方針を作成し、平成30年6月議会の総務教育常任委員会において基本方針案を提示し、一部修正し、基本方針案が正式に決定され、平成30年9月議会に正式決定を報告したとなっております。その後、委託期間を平成30年8月から平成31年3月にかけてコンサルに委託し、適正配置について検討をしています。

多度津町教育課題検討委員会の中で、2020年に四箇幼稚園、白方幼稚園の最も古い園舎が減価償却資産としての耐用年数47年に達するとしています。第6次多度津町総合計画、当初の計画では平成31年度には幼稚園再編のための基本計画に沿った事業の推進となっておりますが、できていないように思われます。今回の計画見直しの中では令和2年度以降はどのような内容になりますか。2020年に減価償却資産の耐用年数47年に到達する四箇、白方両幼稚園のことはどう考えているのでしょうか。2020年は今年になります。この幼稚園統合については、いかが考えがあるのかお伺いします。

教育課長（竹田 光芳）

松岡議員の、まず最初に第6次多度津町総合計画における進捗状況についてのご質問に答弁させていただきます。

議員ご指摘のとおり、当初、第6次多度津町総合計画においては、平成30年度に基本方針の作成、基本方針に対するパブリックコメントの募集及び住民説明会等の開催、幼稚園再編のための基本計画、基本設計の作成とし、平成31年度に幼稚園再編のための基本計画に沿った事業の推進、小学校の再編のための基本計画の作成としておりました。そのため、平成30年度に基本方針決定の後、幼稚園適正配置検討業務を実施し、敷地規模や用地取得、事業費等の整備方法について比較検討を行ってまいりましたが、教育環境の改善のため、適正配置に取り組む必要があると認識しつつも、厳しい財政状況や諸事情から当初の計画どおりは進捗していない状況であります。このような状

況ですので、今回の総合計画を見直しするに当たって、先ほど申し上げた平成30年、31年度の内容が令和2年度以降にずれ込んだような内容となっております。

次に、今年、四箇幼稚園と白方幼稚園の園舎が減価償却資産の耐用年数47年を迎えることについてのご質問に答弁させていただきます。

議員ご指摘のとおり、今年、四箇幼稚園と白方幼稚園の園舎は減価償却資産の耐用年数47年を迎えることになりますが、これは減価償却資産の耐用年数を迎えることであって、直ちに使用が禁止されるものではありません。四箇幼稚園と白方幼稚園の園舎は、調査や補強工事により耐震性が確保されておりますので、老朽化は進んでいるものの園児の安全は確保されていると認識しております。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

再質問をいたします。

最初は、平成28年度に作成された第6次多度津町総合計画において、適正な教育の質及び望ましい教育環境の確保が基本事業に示されていて、その年に教育課題検討委員会を設置し、諮問を行い、平成29年度に諮問に対する答申が行われ、平成30年度には幼稚園統合に関する比較検討を行い、前向きに取り組んで来ましたが、財政事情により事業が進めなかったとありましたが、平成31年度は何をしましたか、お伺いします。

教育課長（竹田 光芳）

ただいまの松岡議員の再質問にお答えいたします。

十分な協議ができず、教育委員会としての結論の方は出ておりませんが、先ほど申し上げました用地の確保についてや敷地の地理的条件であったり、事業費等について、どの整備方法が良いかというのを教育課内において協議をしておりました。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

再質問であります。

四箇、白方両幼稚園が減価償却資産の耐用年数を迎えても、直ちに使用禁止されるものでなく、耐震性は確保されていて、園児の安全は確保されているとの答弁がありましたが、それは今何もしなければのことであって、この前の体育館のような老朽化による事故が起きた場合に、その責任はどこにあるのでしょうか。お伺いします。

教育課長（竹田 光芳）

松岡議員の再質問にお答えいたします。

仮に、老朽化による事故があった場合には、設置者である多度津町に責任があります。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

また、ここ5年間の幼稚園の維持管理の費用は幾らになりますか、お伺いします。

教育課長（竹田 光芳）

松岡議員の再質問にお答えいたします。

人件費を除いた額でお答えさせていただきます。

平成27年度、約6,300万円、平成28年度、約3,200万円、平成29年度、4,700万円、平成30年度、1億200万円、令和元年度、4,600万円、トータルで申します。5年間、工事費のトータルが2億300万円、修繕費、5年間トータルで1,000万円、消耗品費、光熱費の需用費、委託料、賃借料、その他の管理費でございます、5年間トータルで7,800万円、5年間トータルで2億9,100万円でございます。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（松岡 忠）

再質問でございます。

町長にお伺いします。

教育委員会の正式な報告がないからと以前答弁されておりましたが、このような資料がある中で、この幼稚園統合の問題をどのように考えていたのですか、お伺いします。

町長（丸尾 幸雄）

教育課題等検討委員会を教育委員会に検討するように私の方からお願いした時点で、早くしなければいけないということは考えております。今もその考えには変わりはありません。まだ、どこに教育委員会の方から、またどこに建てるのか、それからどういう風にするのか、またそれに関しましては幼・保一元化のことも考えてもらうように言うております。その答えが返ってきてから検討するようになると考えております。なるべく早くしなければいけないというのは、その時点で考えております。ただ、いつも申し上げておりますように、財政の健全化というのは常に考えております。それは財政を運用するときには、優先順位を決めて、選択と集中のもとに行うというのが、これが私が町長に就任させていただいたときからの考えであります。その考えに沿って行っていくつもりであります。

以上です。

議員（松岡 忠）

有難うございます。

今、町長の方から優先順位とありましたが、この事業はどの位置にありますか。

町長（丸尾 幸雄）

まず、一義的に私どもがやらなければいけないこと、それは町民の命を守ること、そういう観点からまいりますと、まだ耐震が十分でない施設、それをまずやっていくことが先決ではないかな、そういう考えの中で、この役場の庁舎とそれから福祉センターの建て替え、これをまず最優先、優先順位を決めて行っております。

今、小学校と幼稚園の数の適正化、これも大事ですけども、幼稚園も小学校も耐震はできております。今、震度6強の地震が起こっても耐えられるというI s値0.7以上というのは確保しております。その中で、まず町民の命を守るといえるのは、やはり今大きな地震に備えることではないかな。そのことをまず、優先順位を高くして行っております。

以上です。

議員（松岡 忠）

今の町長の答弁、有難うございます。それにしても、仮に教育委員会から、先ほど町長が申されました、位置はどこじゃとかというような話が進めていってもいいような状態になっておりますか、お伺いします。

町長（丸尾 幸雄）

財政状況というのは、その時になってみないと判断はできないと思います。ただ、財政状況を考えるのは、その事業をやるかやらないかといった時のことであります。その前に準備をしておくということは、非常に大事なことであります。それで、教育課題等検討委員会において、今の学校の数、それは本当に適正なのか。今の少子化の中において、これからの学校教育を子供のためにやっていくための本当に施設の数というのはこれでいいのか。4つの幼稚園、4つの小学校のままでいいのか。それをもう一回検討してほしいということで、教育課題等検討委員会を立ち上げてもらいました。その中で出てきた答申が、小学校は2校、幼稚園は1園ということになりました。その中で、じゃあどこにするのか、どういう風な形でこれから進めていくのか、そのことを検討するように言っております。その答えが出てきてからになると思います。その時に、財政状況が許せばできるでしょうし、まだその時に財政が苦しければ先送りになると思います。私の考えの中で、1つだけ言っておきます。私が町会議員の頃に、4年か5年ぐらい何もできなくて町民に物すごくご迷惑をかけた時期があります。議員さんの中では余り知ってる方、もういらっしゃらないかも分かりませんが、あの時の町民の不満、そ

れはもうすごいものがありました。そして、その時に町は借金が多過ぎるから、だから夕張みたいになるんじゃないかということが誠にやかに流れました。そういう時代、その時は町は何もできませんでした。財政調整基金も1億円を切ってしまってた。そして、一般会計、年度会計ができなかった。そのために、もうここでは言いませんけども、そのために余り言いたくはないようなことまでやってた。そういう時代、二度と起こしちゃいけないというのは、これが私が町議会議員を務めさせていただいた時に、こういうことは絶対にやっちゃいかん、そのことを反面教師として、今まず私が町長に就任させていただいた時も、財政の健全化、これはもうずっと常に思っています。その財政の健全化というのは、今ここで言えることではありません。今この役場の庁舎と、それから福祉センターの建て替えがあります。その後、どういう風な状況になるのか。それを判断しながら、選択と集中の中で事業は進めてまいります。

以上です。

議員（松岡 忠）

財政難を理由づけにして、私は町長が幼稚園より、この前の跨線橋のエレベーター建設が優先されたように思いますが、いかがでしょうか。

町長（丸尾 幸雄）

何度も申し上げておりますけども、住民の命を守るというのはやっぱり最優先されます。今、老朽化した跨線橋があります。その老朽化した跨線橋のままでは、あそこは多度津小学校区の子供たちの通学路になっています。もし、あのままの状態地震が起こったとき、あの跨線橋はすぐ潰れてしまいます。その上にいた子供たちはどうなるでしょう。生命の危険も起こってくると思います。そのために、今、頑強な跨線橋を造りました。震度6強、今の南海トラフが引き起こす地震にも耐えられるだけの強度を備えた跨線橋であります。これは多度津小学校区の子供たちの通学路として適していると思っています。それと、この跨線橋というのは色々な方が通ります。駅の東と西を結ぶ跨線橋になりますので、その跨線橋を通る町民の方もたくさん増えてきます。旧来の古い跨線橋よりも、もっと増えてくると思いますし、そのような意味で造りました。そのために、そこを通る町民の皆さんの生命を守るということは、私どもにとっては責務だと思っています。

議員（松岡 忠）

いつも町長が安心・安全のまちづくりということでお話ししていますが、そうしたら四箇、白方の両幼稚園の老朽化、これに対しての安心・安全はどう考えておりますか。

町長（丸尾 幸雄）

先ほどから何回も申し上げておりますけども、町民の税金を使って行います事業につきましては、優先順位をつけて、そして選択と集中のもとに行っております。今、老朽化をしているということに関しましては、それは教育委員会の方で体育館のようなことにはなることはないと思います。体育館の場合は、そのまま少し放置していたと言えど語弊があるかも知れませんが、毎回毎回維持管理をしたり、そういうことはしていなかったんですね。それは私ども反省しています。しかし、幼稚園に関しましては、今、園児もいる。そして、先生方もいる。その中で、老朽化していて、ここが危ないということがもしあれば、当然教育委員会に連絡があると思っております。その時には指示をしていきます。今、教育課長の方から年度ごとの維持管理費の額も話をしましたが、あれだけ維持管理費が要るんです。それは老朽化しているということもありますので、それを子供の命を守るためには維持管理費もかかっております。今と同じようなことをこれからも長く続けていくことはなかなか難しいと思いますので、早く適正規模の答申にのっとった施策を行っていかねばいけないと思っております。

議員（松岡 忠）

施行方針の中に、子育て支援の充実を図るというのは、重要施策の中に入っております。子育て支援、この中にはこの幼稚園問題は含まれておるのでしょうか。

町長（丸尾 幸雄）

子育て支援策というのは、子供をお持ちの若い世代の方々が多度津町に住んでもらえるために、そして子供たちを安全な場所に預けて安心して仕事ができる、そのような環境を作っていくことが子育て支援であります。そういう中で、そういう施設なり制度を充実していくことによって、若い方々がもう一度子供を産み育てよう、そういう気持ちになってもらうための施策が子育て支援の充実策であります。

議員（松岡 忠）

町長の任期はあと丸3年ございます。この幼稚園の統合の事業を任期中に完成まで持っていく気持ちがあるのか、お伺いします。

町長（丸尾 幸雄）

先のことは全く分かりません。

議員（松岡 忠）

今の答弁と先ほどの答弁と、中身は全然違うと思いますが、どういうつもりで今の答弁をされましたか。

町長（丸尾 幸雄）

松岡議員さんが時間をすごく気にしていらっしゃるということが分かりま

したので、簡潔に申し上げました。今までずっと私が申し上げていたとおり、子供の教育環境を充実していくこと、これは私どもにとって責務であります。また、町民の安心・安全なまちづくり、また命を大事にするということも、これも責務であります。ただ、それは今やっていることで、これから先どうなるかということに関しては、この3年の後、任期中のことは分かります。それ以後のことは分かりません。そういう意味で、先のことは分かりませんという風に答えさせていただきました。

議員（松岡 忠）

最後の質問にします。

この幼稚園問題を町長がゴーサインというか、ちゃんとやれよという話を教育委員会なりにしたら、取り組み方も変わってくるのではないかと思います。いかがでしょうか。

町長（丸尾 幸雄）

私の方針というのは、教育委員会だけじゃなくて、課長会とか全てのところで話をしております。私の方針、私のやり方、どういう風にしなきゃいけないか、そういう中で私の方から教育課題等検討委員会を立ち上げていただきたいということを教育委員会の方に依頼をしまして、そこで出てきた答申は、私どもは重要視をしておりますし、そのとおりにやっということには、変わりはありません。

以上です。

議員（松岡 忠）

先ほど最後の質問にしようかなと思うんですが、何かしっくりこないというんで、幼稚園の問題を早う進めなんだからいかんがという話を町長の口から何で言えんのかなと。今言う教育委員会とか関係課の方でという話ばかりでなく、頭の話からやれよというのがどうして言えないのでしょうか。

町長（丸尾 幸雄）

もう何回も同じことの繰り返しになります。今私の方針、私がどうすればいいか、私がどうするかということは、全て教育長も副町長も全ての人が分かっていると思っております。その中で、私はいつも話をしております。

議員（松岡 忠）

町長、どうも有難うございました。まだ私の時間、あと15分ほどあります。質問ではありませんが、この3月におやめになる田尾教育長さん、私、教育委員会の話ばかりし大分してきましたので、教育長のお話を一言伺いたしたいと思います。

教育長（田尾 勝）

松岡議員の一般質問の中での貴重な時間を割くという形になるんですけど

も、先ほどの幼稚園の統合についての考え方について、私の方からご説明させていただけたらという風に思います。

1つは、今のお話の中で幼稚園の安全性の問題が出てきた訳ですけども、今年も含めて何年かで本当に危険な箇所については改修工事を幼稚園の場合も行って、子供の命を守るということは当然毎年実施しております。当初の総合計画による事業計画からは、取り組みが、課長が申しましたように遅れております。本町の幼稚園の適正規模、適正配置に係る取り組みにつきましては、園児数の減少や施設の老朽化から勘案しますと、早急に開園できるように取り組むべき喫緊の課題だと今も考えております。

教育委員会では、地理的な条件、用地取得、事業費等の整備方法について比較検討を続けて、どの整備方法が望ましいかなどについて今後も議員の皆様にも協議過程を丁寧に説明、そして協議、報告してまいりたいと思っています。しかしながら、厳しい財政状況も勘案する必要があることから、事業が実施可能になった際には、速やかに取り組めるよう今後も準備を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。また、3月31日までお仕事させていただく訳ですけども、本当に議員の皆様には本当にお世話になりました。有難うございます。

議員（松岡 忠）

以上で私の一般質問を終わります。有難うございました。